

協立なないろだより



医療型療養病棟 多職種チームで支援！



2022年8月 NO.3

新居浜協立病院

医療福祉相談室発行

医療提供が必要で寝たきりの患者様が多い病棟です。医師をはじめ、看護師、介護職、リハビリ職員中心に薬剤師や管理栄養士もサポート、退院支援ではソーシャルワーカーも関わっています。

口の中ぴかぴか

寝たきりで口から食事が食べることができない人が多くいます。看護師、ST（言語聴覚士）、必要な場合は歯科（歯科医師、歯科衛生士）との連携で口腔ケアを（歯磨き、口の中のお手入れ）実施。

誤嚥性肺炎などの予防に繋がっています。

口の中がとてもぴかぴかで綺麗です。



離床の取りくみすすめたい

残念ながらベッド上での療養が大半です。

ベッド上でも仰臥位の時間（回数増やす）を増やす、口から食事が食べられる方は椅子（車椅子）に座って食事ができるなど、看護師、介護職、リハビリ職員と連携して離床の取り組みを進めています。

療養病棟もできる限り必要に応じてリハビリの提供をめざしていきたい。



床ずれ改善

床ずれ（褥瘡）で療養の方も入院。治療は床ずれの手当（処置）だけでなく、栄養状態他も必要で、医師、看護師、栄養士（食事や栄養）などチームで関わっています。

療養病棟の為、期間が長めに治療が可能です。



中濱医師の床ずれ（褥瘡）診察

退院支援も

毎月平均2名は自宅や施設に退院。一人暮らし、病状不安定、長期の支援が必要な困難な方への支援をSW（ソーシャルワーカー）中心にチームで実施。